

自治労連・医労連・全大教 (医療3単産) による 国会議員要請



安心安全の医療・介護にむけて 医師・看護師・介護職員の人員増と処遇改善を

全国から
約270人が参加!
(3月6日)

全大教新聞

2024年4月10日

第418号

【発行所】
全国大学高専教職員組合
(略称：全大教)



【PDF版 (全面カラー)】
http://zendaiky.or.jp/?page_id=107
【電話】03-6802-4250
【HP】<http://zendaiky.or.jp/>
【所在地】〒110-0012
東京都台東区泉
2-20-15 都築ビル2階

* 組合員の購読料は
組合費に含まれて
います (一部30円)

今月の紙面

2 春季・新歓期 合同地区別単組代表者会議
(北海道・近畿 中部・中四国) 3月2日
3 論壇「住み続ける権利、基本的人権に基づいた復興施策を―能登半島地震に寄せて―」
神戸大学大学院人間発達環境学際研究科准教授 井口克郎
3 職場のQ&A「労働組合と過半数代表者

4 つてなにが違うの?」
単組からのレポート
・宮城教育大学「学長選挙に係わる意向投票結果の不開示問題」
・横浜市立大学「賃金をめぐる団体交渉・大学自治問題など」
・九州工業大学「現場労働者の声を聞く」

3月6日、日本医労連・自治労連・全大教(医療3単産)による、安心安全の医療・介護実現にむけた医師・看護師・介護職員の人員増と処遇改善を求める国会議員要請を行いました。全国から医療従事者をはじめとする約270人が参加しました。

要請に先立つ全体集会では、医療3単産の代表者からそれぞれの医療現場の状況や改善すべき課題などが報告されました。全大教からは、コロナ禍で命の危険に晒されながら国民の命と健康を守るために奮闘してきた医療従事者への感謝を述べた上で、大学病院の現状について報告を行いました。

基調報告(日本医労連・森田書記長)では、2022年に医療3単産が合同で実施した看護労働実態調査の結果では、①人員の増、②業務量の削減、③年次有給休暇の取得促進を求める回答が多いこと、国別病床比較データによると、1床あたりの看護師数がアメリカでは4.1人で日本では0.9人となっており、日本では人員不足と看護師1人当たりの病床数が多く過重労働であ

ること、2022年度に新設された看護職員等処遇改善評価料では月額平均3%(12000円相当)となつてはいるが、施設によつてはこの水準に満たない改善しかされてないこと、看護協会ニユース「職業別民間給与実態調査の結果」では、看護師の賃金は30代以降は全産業の平均より7万円低いこと、2024年度診療報酬改定では賃上げにむけた評価料が新設されているものの、本来は患者・利用者負担の増が生じない交付金や補助金で対応すべきである点などが報告されました。

また、全体集会では各政党の国会議員からも激励と賛同の挨拶をいただき、力を合わせて国に働きかける必要性を確認しました。

全体集会后、参加者で国会議員を一人ひとり訪問し、安心・安全の医療・介護の実現にむけて、国民の命と健康を守るために患者の一番そばで使命感をもつて日々懸命に働いている医師・看護師・介護職員等の大幅人員増と処遇改善の必要性を訴えました。

(病院幹事会幹事 山城美奈子)

新しく大学・高専・共同利用機関の 教職員になられたみなさん



いっしょにより良い教育・研究・医療をつくりましょう!
ぜひ組合を覗いてみてください

未来について考えています

- ✓ 教育と学術研究の機能の充実
- ✓ 十分な研究時間の確保
- ✓ モチベーションアップな労働条件の実現
- ✓ 高等教育の無償化や奨学金の拡充など学生への経済的支援の充実
- ✓ 運営費交付金の増額



私たちの声を届けています



教育・研究・医療の充実にむけて、文科省や財務省、国会議員、関係団体への要請などを行っています

笑顔の職場を めざしています

💡 大学・高専・共同利用機関では多様な専門と職種の教職員が協力して運営しています

💡 組合は笑顔の職場をめざして教職員一人ひとりをつなぐ場です